

見

つけた!

街かどに禅を探し、現代に仏教を見つける

いやー、まいったですね。こんな疫病が世界中にひろまるなんて、何ヶ月まえには思いもしなかった。

数年前から、新型コロナウイルスの発症を警告していた専門家もおられたようだし、お釈迦さまも「すべてのものは常に流転する(無常)」とおっしゃっているけれど、平穏なときには、そんな忠告には耳をかさないのが、われら凡夫というもの。

三密なんて言葉も、はじめは何のことやらチンプンカンだったけれど、今では「密閉、密集、密接」と早口言葉のようになめらかに言えるようになりました。

寺の行事は、どちらかというと密集、密接してしまふのですが、「密閉しない」のが本来は得意技でした。

下の写真は、わたくしどもの本山である、京都・妙心寺のおせがきの写真です。毎年七月十五日の朝にいとなまれるようです。

どこでおこなっている行事かというと、境内の山門の通路に施餓鬼棚をおいてお経をよんでいます。

門といっても、いつでもだれでも通れるわけではなく、開放されるのは年に数度の特別な結界です。下の写真の柱の太さから、巨大さがわかるでしょうか。二階建てで上層階に



は観音様と十六羅漢がまつられています。二階は普段は戸締まりされているけれど、一階の通路部分には、戸などないから吹きさらし。そんな換気じゅうぶんなところで、お経を読むのは、新型コロナウイルスの三密をさけるためではありません。

この山門を寄進したのは、徳川家康だといえます。おそらくその頃から、毎年夏に妙心寺は、ここでお盆の行事をしてきたのでしょう。なぜか。

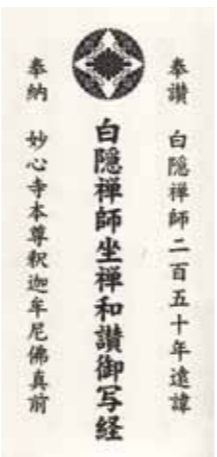
生きとし生けるものすべてに施すのが施餓鬼(せがき)です。この世の、あの世のすべてが相手ですから、境内の奥でまっていたのでは、役にたたない。そこで、清浄な寺域がはてるギリギリのところまで、出向いてくるわけです。

「施餓鬼」の正式名称は、「山門施餓鬼」といいます。山門で行うのが本来のようなので、松岩寺でも今年は、三密をさけるために、山門でやるうかともおもったのですが、そんなことをすると小さな門で、誰も通行できなくなってしまうから、ヤメタ!。いつもとおり、本堂から外を向いてお経を読みます。

ところで、妙心寺山門の施餓鬼は毎年七月十五日朝八時からのようです。ウイルスの流行がおさまったら行ってみたい!

写経の日程

あつまれ!



左記日程の午後1時半から4時半まで本堂で写経ができます。都合の良い時間に来て、ご自分のペースで写経して、お好きな時間にお帰りください。ただし、初めての時はなるべく一時半にご参加ください。もちろん、檀家さん以外でも参加できます。お友だちを誘って、おこしくください

写経【令和2年下半年開催日】

- 7月 12日(日) / 25日(土)
- 8月 お盆行事のため、一ヶ月休会
- 9月 13日(日) / 26日(土)
- 10月 11日(日) / 24日(土)
- 11月 8日(日) / 28日(土)
- 12月 13日(日) / 26日(土)

(原則として第二日曜日・第四土曜日です)

今年のお盆の塔婆のことは

ギックリ腰予防に毎朝、6時25分からはじまる、NHK・Eテレの「テレビ体操」をしています。

家人は「録画して、好きな時間にすれば良いのに」と、アナログ人間を冷ややかな目でみますが、自分にとって都合のよい時間というのはくせ者です。いつでも、できる。と思っていると結局やらない。この時しか、できないと思うから、やりくりして、その時間に合わせる。

コロナ禍で、学校へ行けずに自宅学

習がつづいた生徒学生諸君や、在宅勤務になった人たちがとまどったのは、自分の時間を自分で組み立てることだったのでは?。いつでもできるという自由な時間を、この時にしかできない瞬間に変えるのは、たやすいことではないでしょう。

さて、例年とは少しことなる方法で、お盆の塔婆供養の申込みを受けつけます。詳しくは表の面をごらんください。多くの人が「塔婆は、毎年同じこと

維時 令和二年 共自恣是蘭盆會

ばが書かれているのだろう」と思っていないから、裏の面は毎年ちがう文句を書いています。

今年「共におのずからほしのままにする。これウラボン工(共自恣是蘭盆會)です。出典は『仏説盂蘭盆経』。この7文字のなかで、重要な字は「恣(し)」「ほ(し)」「ま(ま)」です。

「恣」を広辞苑は、「自分の思うとおりにふるまつさま」と教えてくれます。気ままな事をあらわす、「恣意的」なんて

熟語もあって、印象のよくない「恣」の字ですが、そんなことはない。いつももったたら強要される時間を、ほしのままに自分で組み立て、学んだり、仕事をするわけです。

あるいは、好きな時に外出できることが自由なのではありません。欲望を自分の意志でほしのままに制御して、時には、「菓ごもる」ことができるのが自由な心です。そう思うと、「恣」は、今年の夏のキーワードです。